学校番号	１０１２

令和８年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
講座名	書道Ⅲ						
使用教科書	「書Ⅲ」　（光村図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・『書Ⅰ、Ⅱ』で培った書能力やスキル、より多くの古典を臨書し学習したことをもとに、書の知識や能力を一層伸長し、自分の能力を最大限いかした創作作品を制作する。
・展覧会等の書作品の鑑賞と批評などにより、芸術を愛する心情を育成し自身の表現力を向上する。
・書をはじめとしたコンクール出品により、書に対する意欲の向上をはかる。

2　学習の到達目標

書の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。
（２）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
（３）主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観点の趣旨	書の基本的な用筆や効果的な表現技法を理解し、身に付けている。	自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、意欲的に取り組もうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価の方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	漢字の書（各書体の学習から原寸大臨書へ）	漢字の学習 ・各自で選択した古典を4文字～6文字で臨書する(半紙) ・小筆での原寸大臨書を行う ・画仙紙への臨書を行う ・完成した作品の鑑賞、意見交換を行う。	c:積極的な表現技法や特性など臨書を通して高めようとしている。 a:選択した古典の表現をよく観察しスキル向上のための臨書をしている。 b:原寸大臨書により自身の能力をいかした創造力を養い、創意工夫をして表現している。 c:他の生徒の作品鑑賞および感想など、積極的に意見交換をしている。	作品	作品	振り返り　活動の様子　鑑賞プリント
二学期	仮名の書	仮名の学習 ・多くの仮名古典作品を鑑賞する ・単体と連綿　散らし書きと用紙の工夫など、かな独特の表現テクニックを学ぶ ・大字仮名作品の制作 ・発表	c:古典を中心に鑑賞し、感じた意見を述べ合う。 a:基本的な用筆方法および連綿技法を理解している。 b:用筆方法を活かして工夫しながら表現している。 a:逆筆と順筆、筆の弾力を利用するなどの用筆方法を身に付けている。 c:大字仮名の表現方法を知り、そのよさや美しさを味い、自他共に認める鑑賞を行っている。	作品	作品　発表	振り返り　活動の様子　記録用紙
三学期	漢字かな混じり作品(少字数作品の創作)	卒業をひかえ高校三年間の自分のよい点を自身で発見させ言葉に表す ・短い文で表現する ・半紙に練習 ・表現方法を考える (墨色、隅の潤渇など) ・全体の構成を考える (紙面と文字のバランス等1・2学期で培った能力を活かす) ・グループ活動により中身の濃い批評や意見を述べ合う	b:高校三年間で自分の良いところを見つけて文にしている。 b:言葉をきちんと整理しその言葉にあった表現をしている。 a:漢字と仮名のバランスや紙面構成などをきちんと理解し表現している。 c:自他共に認め合いお互いを尊重しながら意見交換をしている。	作品	作品	振り返り　活動の様子　意見交換まとめプリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　　b:思考力・判断力・表現力
c:主体的に取り組む態度